

出場する西塚君(左)と的場君



的場君、西塚君、服部君

秀峰の3人 電脳甲子園へ

松本市の松本秀峰中等教育学校5年生の的場岳斗君(17)、西塚遥都君(16)、服部惇君(17)が、22、26日にオンラインで開催される「第28回スーパーコンピューティングコンテスト」夏の電脳甲子園の本選に出場する。理化学研究所のスーパーコンピュータ「富岳」を使うプログラミング大会で、予選を突破した全国の高校生20チームが戦う。予選初出場の本選の切符を手に入れた3人は強豪校相手に気持ちを高めている。(田中千絵)

本選は、科学技術のムを作成。審査でプログラムを正確さと速さ、さまざまな分野から最先端の話題が課題として出される。出場者はネットワーク経由で富岳を使い、数日間かけて問題を解くプログラ

ムを作成。審査でプログラムの正確さと速さ、さまざまな分野から最先端の話題が課題として出される。出場者はネットワーク経由で富岳を使い、数日間かけて問題を解くプログラ

「富岳」使い。プログラミング

け、大会に出場するないやスペルミスなどのどして腕を磨いてきた。灘や開成、筑波大付属など名門校が名を連ねる伝統ある大会で、蓄えた力を実践しようとする。西塚君は「難題に挑戦するの自分の成長が感じられるので楽しい。案を考え、3人で改善や修正を重ねたプログラムで挑む。的場君は「計算間違いを込めている。

第二種郵便物認可

松本秀峰5年生チーム プログラミング大会本選へ



スーパーコンピューティングコンテスト本選に出場する西塚さん(右)と的場さん

松本市の松本秀峰中等教育学校5年生(高校2年)でつくるチームが、8月下旬にオンラインで開く高校生らのプログラミング大会「第28回スーパーコンピューティングコンテスト」本選に出場する。スーパーコンピューター「富岳」を利用し、与えられた課題を解くためのプログラム作りを挑む。生徒らは「意見を出し合って課題に挑戦し、トップを目指したい」と意気込んでいる。

「富岳」味方に目指すは頂

4日間かけ一つの難題に挑戦

チームのメンバーは、的場岳斗さん(17)と服部惇さん(17)、西塚遥都さん(16)。それぞれ自宅や学校のパソコンでプログラミングを楽しんでおり、情報交換をしたり、プログラムの完成度を競い合う「競技プログラミング」の大会に参加したりして技術を磨いている。

「蓄えてきた力を試そう」と3人でチームをつくり、同コンテストに初挑戦。6月に予選があり、タイトルの上をランダムに移動するロボットの位置を推定する課題に挑んだ。3人で協力しながらプログラムを考案し、本選に出場する20チームに入った。

大会は東工大、大阪大、理化学研究所の主催。本選は8月22、26日に開き、4日間かけて一つの問題に挑む。課題は当日発表され、科学技術分野の最先端の話題から選ばれるという。学校などのパソコンから理化学研究所計算科学研究センター(神戸市)の富岳にアクセスし、プログラムを考えて改良を重ねていく。

西塚さんは「富岳はあり得ないほど速く、大量の計算ができるはず。プログラムの精度をどれだけ高められるか楽しみ」。的場さんは「難しい問題ほど達成感がある。1位を目指したい」と話している。